

秋季彼岸会 並 総永代経法要

兼・墓地納骨(物故者)追弔法要

日時

9月20日(金) 13時30分

講題

「出遇い直し」

法話

洲崎 善範師 (第13組即念寺住職)

× 弾き語り 角谷 早音美さん

ご講師からのメッセージ

2019年、コロナ前にはじめてジャズミュージシャンの角谷早音美さんとコンビを組んで、音楽と法話のコラボレーションを、ここ天満別院でおこないました。振り返ると、コロナ禍当時、パーティーションを使っても横を見れば遮るものがなにもない、、、こんなことが本当に感染防止になるのか、よくわからない時期もありました。

今回は『出遇い直し』を講題としました。このコロナ禍との出遇い直し、亡き人との出遇い直し、自分自身との出遇い直し、そんなことをキーボードと歌と法話を交えながら伝えていきます。

出遇い直しということは一度目の出会いと二度目以降の出会い、時間差があるということです。音楽の力は、その当時へあつという間にタイムスリップができるということです。不思議と一瞬でその当時へと自分自身を連れていってくれます。今と過去を結びつけるという仏教のはたらきそのものが音楽にあります。

ジャンルにとらわれない音楽を届けていきます。

Q&A

なぜ? お念仏で救われるの?

南無阿弥陀仏



答え

この疑問について、最初に「お念仏・南無阿弥陀仏」から考えてみましょう。お念仏を考えるにあたり、信国淳先生のお言葉を参考にさせて頂きたいと思えます。先生の「汝、無量寿に帰れ 無量寿に帰って 無量寿を生きよ」というお言葉があります。「あなたは、本来の自分に帰って下さい 本来の自分に帰って下さい 本来の自分を生きして下さい」という意味です。この言葉からお念仏は、阿彌陀仏にお願いをするのではなく、人が阿彌陀仏の呼びかけに耳を傾け、自分の思いや都合によって迷

(第14組 専隆寺澤田友)

うことから、本来の自分に立ち返らせて頂くことだと考えることが出来ます。次にお念仏で救われるということについては、自分の思いや都合を満たすことが救いは無く、逆にそう言ったものによって、迷っていた自分に気付かされて、「いま、ここにいる、この私」本来の自分に帰らせて頂くことです。私達は、他者によって迷わされるのでは無く、自分の思いや都合によって迷います。生き

報告

暁天講座 開講



21組西向寺 新川 隆 教師

去る8月2・3日(金・土)暁天講座が開講されました。御講師には21組西向寺住職 新川 隆 教師をお迎えし、講題「お経のこころ」についてお話いただきました。師は、お経とはお釈迦さまが亡くなつてから弟子たちが書き起こしまとめられたもので亡くなつてから600年後に浄土真宗の基本となる経典が生まれました。私達は、お浄土という世界をどこかにある世界として考え自分自身の信心に気づかないでいるが、常に私たちの目の前にあるのに心の汚れや疑いによってそれがわからなくなっていると話されました。

盂蘭盆会 勤修



13組心願寺 松井 聰 師

去る8月13日(火) 盂蘭盆会が勤まりました。御講師には13組心願寺住職 松井 聰 師をお迎えし、講題「真宗の供養」についてお話いただきました。師は「供養」とは人と共に養つていこうという意味であるが、自分から見れば10代遡れば1024人と関わりがあるはずだが実際に供養しているのは少数です。なんでもないものを自分自身で良い・悪いに変えてしまうことを「分別の基準線」と話され、人によって基準がバラバラなので合わず悩み・苦しむことになるがその苦しみから救われるのが念仏の教えであると話されていました。